

目的

ICTを活用した情報共有のための共通ポータルサイトを作成することで、地域の医療・介護関係者や医療機関間の広域的な連携（情報共有）を促進し、都における在宅療養推進体制の強化を図る

現状・課題

- 地域によって利用している多職種連携システムが異なっているため、担当患者の地域によって複数システムを利用する場合があります、業務が煩雑となっている
- システムを導入したものの登録患者数が伸びないなど、ICTを活用した情報共有の取組が進んでいない地域がある
- 病院と地域の医療・介護関係者間の情報共有の充実が求められている

現状・課題

- 退院予定患者が遠方の地域の病院へ転院する際、地域の医療機関の情報が少ないため、転院先決定までに時間を要する場合があります
- 退院予定患者が転院するまでの時間が短い場合などに、効率的に転院先病院と調整できる仕組みが求められている
- 受入側病院から転院元病院に対する、患者受入のためのアプローチの仕組みが求められている

① 多職種連携タイムライン（仮称）

担当患者ごとにシステムが異なっている場合でも、一元的に患者情報の更新状況を確認でき、円滑に各システムの患者情報へアクセスできる仕組みを構築

<効果>

複数システムを利用する場合の業務の煩雑さが軽減され、医療・介護関係者の利用増が図られる  
多くの地域との情報共有が必要となる病院の参画が促進される

② 転院支援サイト（仮称）

転院元病院と受入側病院双方からのアプローチ機能を備えた退院予定患者の受入れマッチングを行う仕組みを構築

<効果>

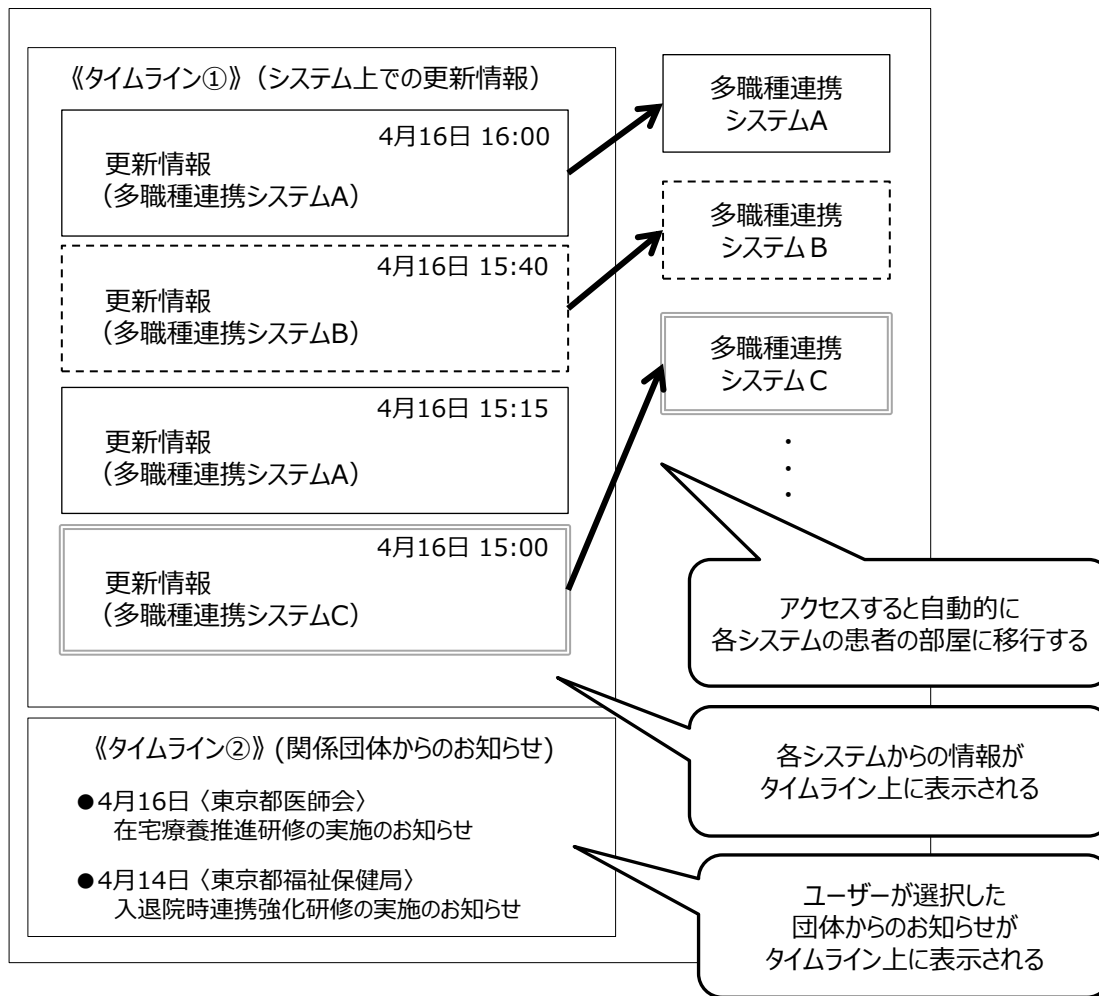
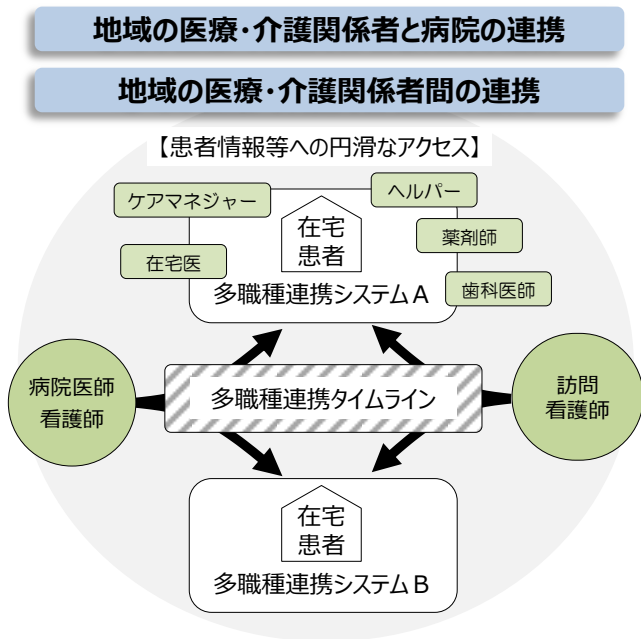
空床情報等を踏まえた転院候補先病院の検索や、転院候補先からのアプローチが可能となり、効率的な転院先の選定が可能になる

東京都多職種連携ポータルサイト（仮称）

同じポータルサイト上に二つの機能を設けることで、双方の機能の利用促進を促す

# 東京都多職種連携ポータルサイト（仮称） 概要

## ① 多職種連携タイムライン（仮称）



② 転院支援サイト（仮称）

